授業実践報告

介護福祉士を目指す留学生のためのコンピューターリテラシー
ー情報基礎演習　介護福祉コースー

川喜田多佳子・寺家　尚美

1. はじめに

2020 年度に介護福祉士を養成する大学や専門学校に入学した留学生の数は、20 か国から 2,395 人であり、日本人を含む全体の入学者数 7,042 人の 34％を占めている[1]。本学キャリア育成学科介護福祉コースの 2020 年度入学者数は、日本人学生 3 人、留学生 23 人であり、日本人学生を大きく上回る人数の留学生が入学した。また、留学生の数は、年々増加しており、2 年前の 2018 年度に入学した留学生が 8 人であったことと比較すると、留学生の人数は約 3 倍に増加している。今後介護現場では、多数の外国人が働く職場となる。在学中から日本人学生と留学生がともに学ぶ授業は、文化の違いなどお互いを認め合いつつ、協働意識を高める必要があると考える。筆者らは、キャリア育成学科介護福祉コース 1 年生の情報基礎演習において、2017 年度より日本人学生と留学生の協働意識を高める授業を実践してきた[2]。その中で介護福祉士を目指す留学生に必要なコンピューターリテラシーとは何か、これまでの実践内容からみえたものを報告する。

表 1. 介護福祉コース入学者人数

年度	日本人	留学生（）内は国数
2018	10	8（3）
2019	13	19（5）
2020	3	23（1）

2018 年ネパール 8 中国 2 ベトナム 1
2019 年ネパール 14 ベトナム 2 スリランカ 1 中国 1
フィリピン 1
2020 年ネパール 23

2. 情報基礎演習について

本学では、1 年生前期授業に共通教養科目である情報基礎演習の授業がある。この授業は、2 年間の学生生活において配布されたノートパソコンを中心に、情報を適切に活用できるようになるために、パソコンの基本的な扱い方と Office アプリの基礎を学ぶ。パソコン活用技能はどのような職場でも必要不可欠であることから、卒業後も実践で生かせるようにすることを授業の狙いとしている。介護福祉コースの情報基礎演習においては、介護現場でも作成するであろう Word を使ったチラシや注意喚起ポスター作成、PowerPoint を使った自己紹介プレゼンテーションやグループでの課題作成を実施している。特に 2018 年からは、留学生の人数が増加していることもあり、日本人学生と留学生を混在させた少人数でのグループワークを実施し、異文化への理解を深め、思いやりの心を育みつつ、この先の介護福祉現場を見据えた積極的な活動の意識を高める授業を実践している。グループワークは

15 回の授業後半で、PowerPoint を使った演習で実施する。「自己紹介」や「私のおすすめ」をテーマとしたプレゼン作成と発表を実施し、学生同士が相互評価することでお互いの理解を深めたところで、次のグループワークで協働課題に取り組む。昨年の課題は、日本の昔話の電子絵本作成と発表であった。これは、留学生の日本に関する知識向上、介護現場で高齢者とのコミュニケーションの一助になることが考えられることから実施した。また、ともに学ぶだけでなく、日本人学生が留学生をサポートすることで、異文化コミュニケーションを図るだけでなく、日本人学生のリーダーシップ力向上につなげることも狙いとした。

3. 留学生の問題点

多人数の留学生への授業では、パソコン活用と協働意識向上の学習効果がみえる反面、問題点もみえてきた。1 つめは、日本語能力の低い留学生が増加し、授業内での教員からの指示、パソコンに関する専門用語や操作方法の説明を理解させるのに時間がかかることである。さらには、理解できず我慢できない留学生が、躊躇することなく母国語で周りの留学生とやり取りを始めてしまう姿もみられる。また、テキストが読めない問題もあるため、本授業では、日本語ルビのある留学生向けの教科書を採用しているが、日本語能力の低さから教科書を読んで学習に活用できるところには至っていない。2 つめは、パソコンスキルの低さである。日本語入力に不慣れなだけでなくマウスにも慣れておらず、操作に時間がかかる。そのため、自分でパソコンを操作せずに隣の留学生に任せてしまう学生もいる。このような授業状況において、昨年度は 15 回の授業前半で日本人学生から留学生の取り組み姿勢や授業進行の遅さに対する不満の声があがる場面もあった。

4. 今年度実施内容

4-1　クラス編成

今年度は昨年よりも留学生の人数がさらに増加したことやこれまでの問題点を改善するために、留学生の日本語能力により情報基礎演習のクラスを 2 つに分けることとした。クラス編成は、日本人学生 3 人と入試での日本語成績が高かった留学生 11 人を寺家が担当し、残りの留学生 12 人を川喜田が担当した。同じ時間割で実施し、学びの要所でグループワークやクラスを統合した授業も取り入れることを計画した。

4-2　授業内容

今年度もパソコンを活用したグループワークをいくつか取り入れ、お互い協力したり教えあったりする授業を実施する予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 1 回から第 4 回授業までが遠隔授業となった。また、対面授業開始後も感染防止対策のため、複数人で行うグループワークの実施は見送ることとなった。各授業回の内容は、表 2 に示すとおりである。

表 2. 授業内容

遠隔授業	第1回	ガイダンス　manabaの使い方
	第2回	ノートパソコンの活用1 コンピュータの基本、短大メールの使い方
	第3回	ノートパソコンの活用2 manabaの使い方、Word基礎
	第4回	自己紹介文の作成　日本語入力を学ぶ
対面授業	第5回	Word　文書作成の基本1
	第6回	Word　文書作成の基本2
	第7回	Word　文書作成の応用
	第8回	Wordのまとめ（ポスター作り）
	第9回	PowerPoint　スライド作成の基本1
	第10回	PowerPoint　スライド作成の基本2
	第11回	PowerPoint　自己紹介プレゼンテーションの準備
	第12回	PowerPoint　自己紹介プレゼンテーションの準備
	第13回	PowerPoint　自己紹介プレゼンテーションの発表1
	第14回	PowerPoint　自己紹介プレゼンテーションの発表2（留学生）
		Excelの基本１　四則演算、表作成（日本人）
	第15回	PowerPoint 発表のふりかえり（留学生）
		Excelまとめ（日本人）

4-2-1　遠隔授業

留学生の中には、Wi-Fi などの常時接続できるネットワーク環境が整っていない学生もいたため、遠隔授業では、あらかじめ作成した授業動画の視聴と学習支援システムである manaba を活用したオンデマンド型の授業を行った。授業動画は、ネットワーク環境の整った学生には YouTube による限定配信を行い、ネットワーク環境のない学生には動画や授業用データを入れた USB 郵送による受講とした。情報基礎演習は、他の授業の遠隔授業においても必要となるノートパソコンの使い方や manaba について学ぶ授業であるため、他の授業より先行して 4 月 27 日に第 1 回目の授業配信を行った。PowerPoint を使った説明動画とキャプチャーソフトを使ったパソコン操作画面を提示した動画を併用し、manaba の使い方、短大 Web メールの使い方、Word の基礎について学習した。出席管理は、manaba のアンケートや小テスト機能を使い、期限内に授業動画内で指示した内容の返信や確認テストを行った学生を出席とした。しかし、入学間もない留学生には遠隔授業はとても困難であり、ほとんどの留学生には指示が伝わらず、課題や出席管理用のテスト実施やアンケート回答に反応がないという状況となった。留学生支援室による遠隔授業の進め方のサポートを受けたが、授業の進みはよいものではなかった。日本語能力の低い留学生は、学内で他の学生たちと共に学び、直接指導を実施する授業が大切だということであろう。

遠隔授業の方法は、YouTube によるオンデマンド形式とした。動画内の説明文章はふりがなをつけたり、ひらがな表記にしたりすることで、言葉だけでなく文章で伝わるようにした。

図 1. YouTube 限定配信による授業動画

図 2. 遠隔授業の理解度と授業アンケート

4-2-2　対面授業内容

対面授業が始まった第 5 回から第 8 回までは Word を使った文書作成を行った。基本操作から図形描画によるオリジナルイラストを入れたポスター作成までを実施した。寺家クラスでは、日本人学生もいることから基本的なビジネス文書作成の課題、介護現場を想定した介護施設での夏祭りの案内ポスター作成の課題などを実施した。川喜田クラスは、日本語入力の少ない暑中見舞い文書の作成や猫のオリジナルイラスト作成などを実施した。

第 7 回からは介護施設での夏祭りを想定したポスター作りの課題では、指示内容がうまく理解できず、全員がネパールのまつり紹介ポスターを作成している。日本人学生の作品と比較しても大きく異なることがわかる。

図 3. 寺家クラス　介護福祉施設の夏まつり案内ポスター作成
（左：留学生作品、右：日本人学生作品）

川喜田クラスでは、暑中見舞いと迷子猫案内のポスター作成を行った。作品に取り組む姿勢において留学生に共通する特徴がある。それは完成例と同じものを忠実に再現することに強いこだわりを持つところである。朝顔のイラスト作成では、蔓の絡み具合や葉っぱの角度、猫のイラストでは不揃いな髭の表現などを納得のいくまで書き直す。その後、留学生同士で相互評価をしながらより良いものに仕上げていく。これは過去 4 年間、すべての留学生から見て取れる姿勢であった。

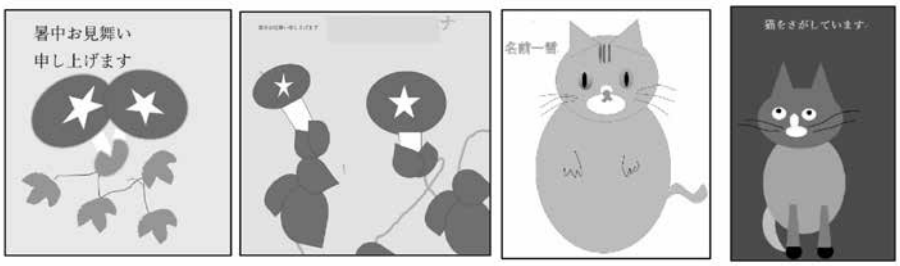

図 4. 川喜田クラス　暑中お見舞いと迷子猫案内のポスター作品

第 9 回目からは PowerPoint を使ったスライド作成の基本を学習した後、最終課題である自己紹介プレゼンテーション課題に取り組んだ。寺家クラスでは第 13 回目授業で日本人学生の発表を行い、留学生には発表のお手本としてみるよう指示した。第 14 回目授業で両クラスの留学生全員が発表を行った。全員の発表についてお互いにコメントを入れ合い、manaba の掲示板機能を使って自分あてのコメントを見ることができるようにした。今年度はグループワークを実施することはできなかったが、最終課題であるプレゼン発表と相互評価実施では、歌を披露する学生が数名いたり、日本語に詰まりながらも臆することなく発表を行ったりする積極的な取り組み姿勢がみられた。また、お互いの発表についてしっかりコメントを言うことができた。コメントは文章でも提出してもらったが、こちらは文章能力の問題もあり、単純な表現のみのものが多かった。

制作の仕上げ過程では、アニメーションや画面切り替え設定について、熱心に質問する姿勢が多く見られた。留学生は「このように感じてもらえる発表をしたい」という明確なビジョンを持って制作していく。質問の方法も「わたしの台詞に合わせて動くようにしたいです。みんなに素敵ですねといってもらいたいからです」という具体的な表現をする。聞き手の心を動かし、感動させたいという思いを念頭においていることがわかる。また特定の学生から出てきた質問に反応し、「私にもそれを教えてください」という声が広がっていく。そのため個人から出た質問は皆に共有し、プロジェクターを用いて演習形式で説明する作業を繰り返し行った。表 3 はプレゼン発表に対するコメントを抜粋したものである。たどたどしい日本語ではあるものの、聞き手として心が動いていることが見て取れる。このフィードバックにより発表した留学生も自分の作品が狙い通りであった達成感を得ることができただろう。これこそ理想的なプレゼンテーションと言えるのではないかと考える。

表 3. プレゼン発表に対する留学生のコメント（抜粋）

Aさんへのコメント	A さんの発表は面白かったです。 ネパールのポカラのお勧めを上手に絵も出してよく説明できました。 A さんの発表を聞いてポカラのことをわかりましたが、もちょとはきり説明したほうがいいと思います。 A さんの発表はネパルの国民の花と鳥について話しました上手にに絵を入れて作りました楽しになりました A さん、の発表はネパールについてでした。いいでした。 A さんの発表はようはとてもおもしろかった 楽しいかったでした。 A さんの発表は面白かった。
Bさんへのコメント	B さんの発表は歌について面白でした。 B さんの発表は日本の歌う雨の日はみんな一回聞いたほがいいです。 B さん日本語で歌も聞きましたとてもいいです。 B：日本の歌を上手にうたいぇました。 B さんは日本の歌を頑張って歌いながら発表がよくできました。 B さんの発表で日本の昔の歌について聞きました。この歌を慣れると役に立つと思います。 B さんは上手に歌を歌って施設の働いていることとかやり方を発表しました良かったです B さん、の発表は日本の昔の歌でした。その歌は一回も聞いたことが無いですが、まだ聞きたいです。 B さん歌った歌をすごいでした。 B さんの歌が面白かったでした
Cさんへのコメント	C さんはポカラの説明はとてもいいです。 C さんはいろいろ場所の説明してよっかたです。 C さんのはなしが素晴らしい ネパールのポカラのお勧めを上手に絵も出してよく説明できました。 C さん：とてもいいです。 C さんは C さんの行きたいところは私のも興味があります発表が上手にしましたやり方はすごいと思います。 C さん、の発表もネパールのことで説明しましてまだララに行ってないんですが、ララのことを聞いていく気持ちになってます。 C さんの発表はネパールについていいでした。 発表はいいでした、その中で私行きたいところはララです。 C さんの発表ではポカラとか C さんが行きたいな色々所についてわかりました。

4-3　授業終了後のアンケート結果

5 回の授業が終了した後、授業についてのアンケートを manaba にて実施した。質問内容は、「この授業で一番難しかったことはどれか」、「この授業で勉強したこととなかで、できるようになってよかったことはどれか」を複数回答可とした。回答結果は、寺家クラスのみではあるが、この授業で一番難しかったことは、図形描画によるイラスト作成であった。教科書にある雪ウサギや夏祭りの提灯のイラストを図形の組み合わせで作成したが、マウス操作に不慣れであったり、マウスを使わずにノートパソコンのタッチパッドで操作する留学生の姿が見られたりしたことの結果だと考える。

また、この授業で学び、できるようになってよかったことは、manaba の使い方が 7 名と一番多く、イラスト作成は 3 名という結果であった。これは、この授業が他の授業を受

けるうえで重要な役割を占めていることを証明する結果であり、最も不慣れな操作であったイラスト作成はできるようになった実感を得ることができなかったと考える。

川喜田クラスの学生については、１年前期の段階ではまだ日本語の理解が難しいためか、データとして有用な結果を得ることができなかった。授業についての自由コメントをみると、他の授業の課題やレポート作成に役立ったという声や、情報活用力があがったことを実感している声があることから、授業の目的は達成できたといえる。

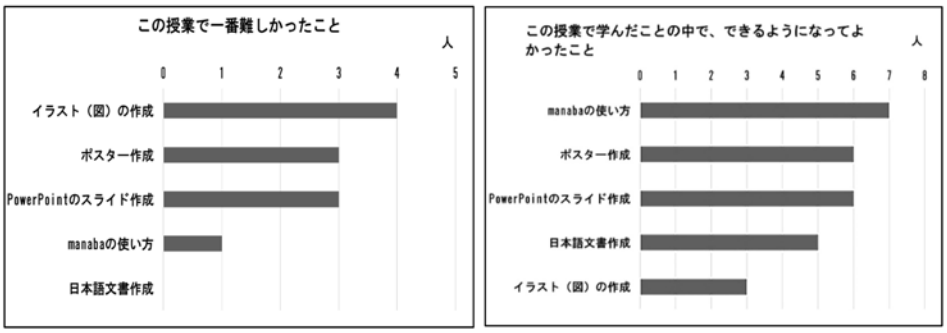

図５．難しかったこと、よかったこと（複数回答）

5. 取り組みからみえたこと

日本語能力は低いものの、留学生の取り組み姿勢は日本人より積極的な態度で挑んでくる。わからないことがあれば、自分の言葉で物怖じせず質問をしたり、他の発言に対してすぐに反応したりと、自分の意見も出せる。相互評価がしっかりできるのが留学生の特徴である。このような点に関しては一緒に学んでいる日本人学生も見習って欲しいところである。2017年度から2020年度までの４年間で実施してきた授業内容として、その特徴が顕著にみられたのがプレゼン発表である。今回のプレゼン発表においても、テーマが自己紹介や私のおすすめであったことから、故郷のこと、家族のこと、母

表４．授業アンケート結果（複数回答）　n=11

このじゅうし授業受けて助かりました。他の授業の課題とレポートをやりやすくなりました。
今までわたしはパソコン使い方わからないけど先生のおかげでいろいろなこと教えてもらいました。今からもっとがんばります。パソコンから字書くむずかしいけどどんどん上手になっています。 ありがとうございました☺
ネパールでパソコンの勉強しましたが忘れた時もう一度勉強する機会がもらいました．ありがとうございました．
情報基礎演習の授業を受けて良かったです。色々なわからないことをわかってきました。 ありがとうございました。
15回の授業が終わりました。先生の私たちに教えてくれたこととか先生から習ったコンピューター📖の使い方が好きです。
この授業に習ったことを他の科目にも良く役に立ちました。実際にパソコンを使いながらやったことで覚え安くなりました。パソコンの使い方自分が今までできなかった、作業を少しずつ習って来てとても良かったです。
この授業に教えてもらってことは全部役に立つので、授業を受けてとても良かったと思います。
先生は優しく教えたかたはいいおもいましたパワポイントについてもっと上手につかうことをなりたいです
この授業で先生から簡単な説明をして教えてくれましたのでよかった。
この授業受けていろいろなパソコンの使い方を学びました。
私は、パソコンをあまり使えませんのでこの授業を受けて word や powerpoint などの操作をできるようになりました。先生はいつも優しく教えてくれました。ありがとうございます。

国料理など自分の大切にしているものや興味深いものであったことから、よりよいものを作りたいという姿勢が見られた。しかしながら、この取り組みでは留学生のもつ積極性からくるマイナス面も見えてくる。他の人が話していても気にすることなく自分の質問や意見を発する場面が多々見られた。しかし自分の興味のないものについては、完成度を高める工夫をしない傾向も見られ熱意の感じられない作品を臆することなく提出してしまう点もある (図 5)。そのような学生に対し、適切なタイミングでのモチベーションアップを促す指導方法も今後の検討課題である。

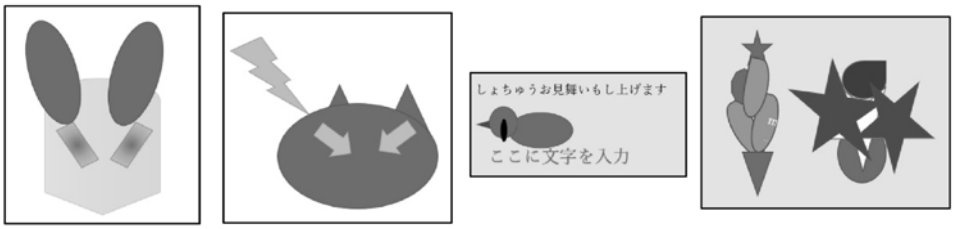

図 6. 完成度が低い作品例

表 5. 留学生の特徴

プラス面	マイナス面
・自分の作品に大きな自信が持てる ・相互評価がしっかりできる ・作品にこだわりを持ち、よりよいものになるまでなんども教員に質問できる	・複数人が同時に自分の考えを言う ・説明は聞かず、一人一人が自分のタイミングで個人指導を求める ・母国テーマ以外に興味を示さない

6. まとめ

来年度はカリキュラムを変更し、1 年前期の情報基礎演習に加え、後期に文書情報演習 1 が加わる。これにより Word での文書処理技能の向上を狙っている。授業で数多く課されるレポートのほとんどが Word での製作となる。留学生には授業での演習を通し、日本のレポート書式や印刷のテクニック、さらにはコンピューターリテラシーや周辺機器共有利用のマナーなど、日本で働くために必要な知識をさらに身につけて欲しいと考える。

人数が多く、多様な留学生には、日本人学生とは異なる対応が必要となる。これまで行ってきた 4 年間の授業実践の中で、留学生の授業目標を達成するためには、興味のある内容でできる限りの演習を行わせることであった。また、留学生へのパソコン指導には、パソコンの技術を教えるだけでなく、集中力を切らさず取り組ませる授業展開がカギとなった。また、授業前半は教員と学生の距離を縮め、よりよいスタートが切れることも重要なポイントの一つである。それには家族や仲間を大切にする国民性を尊重し、一人一人の主張に

根気よく傾聴する姿勢が軸であると考える。新しいカリキュラムでは、これまでに得た良い成果を生かしつつ、新たな課題を見出しながら留学生にとって最良なコンピューターリテラシー教育を行っていきたい。

引用　参考文献

1　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会　令和 2 年度 介護福祉士養成施設の入学定員充足度状況等に関する調査の結果について（2020 年 10 月 15 日発表資料）

2　川喜田多佳子　寺家尚美　日本人学生と留学生の協働意識を高める授業の成果と課題－情報基礎演習　介護福祉コース実践報告－『高田短期大学紀要第 37 号』（平成 31 年 3 月）